

資料① 先生からのそうじの指示

- ① そうじの班の人数は6人です。
- ② だれかひとりに負担がかからないように役割を分担しましょう。
- ③ エ夫して、より早く、きれいにできる具体的なそうじの方法を考えましょう。
- ④ 必ずそうじをするべきところはゆかと前黒板です。教室内で他にもそうじをするべき場所があると思う場合は、取り組んでかまいません。
- ⑤ 教室の机は必ず移動させて、ゆかをそうじしてください。教卓と教壇たく だんを移動させる必要はありません。
- ⑥ ゆかがよごれないように、机は引きずらずに1つずつ運びましょう。
- ⑦ 前黒板は消して、きれいにしましょう。
- ⑧ 粉受け(チョークを置く銀色の部分)と黒板消しもきれいにしましょう。
- ⑨ 教室に設置してあるそうじ用具のみ使用することができます。
- ⑩ そうじの開始時は、机が教室後方に寄せられた状態になっています。

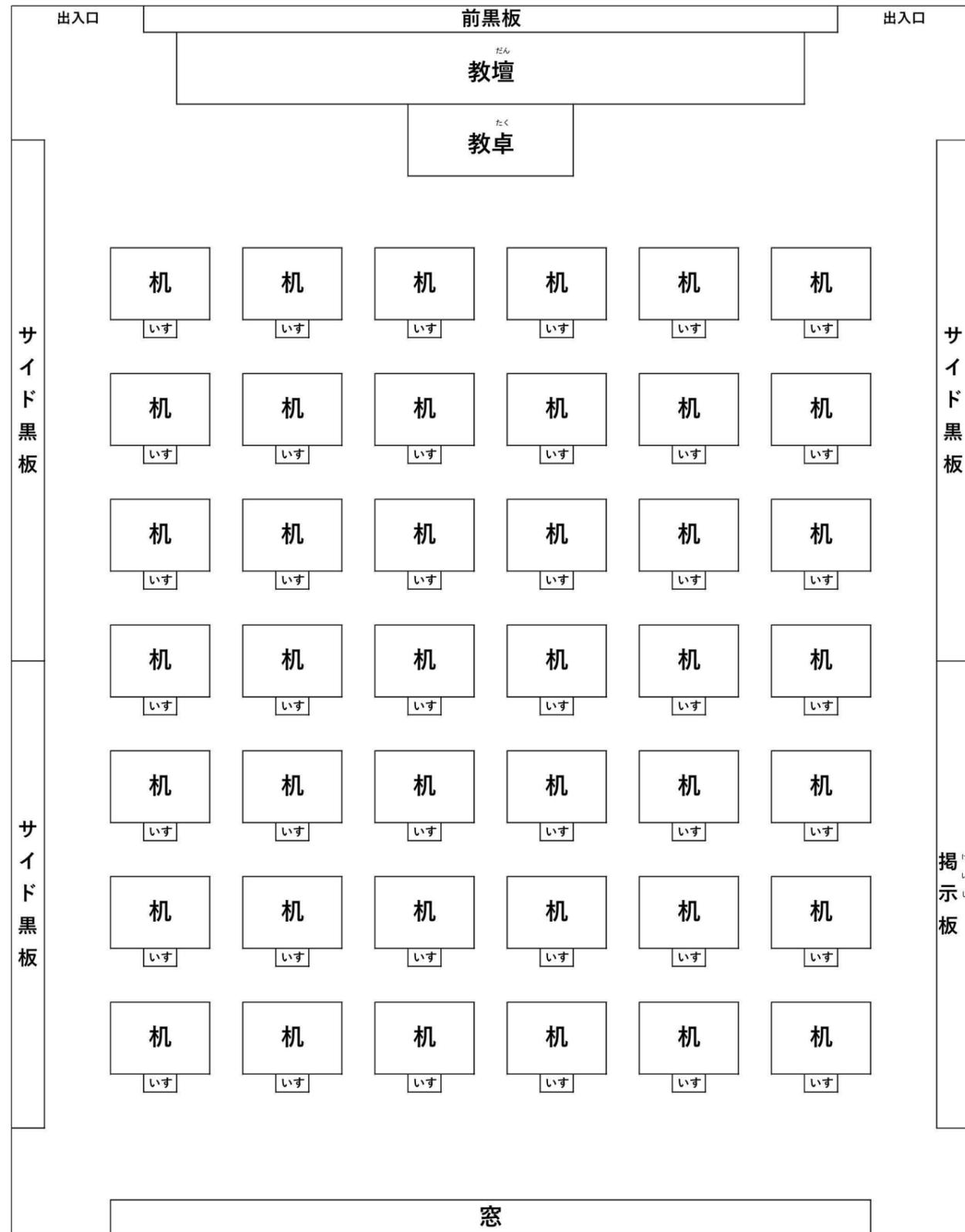


※いすは机の上ののっています



資料② 教室の配置図と教室のそうじ用具一覧

教室の配置図



教室のそうじ用具一覧

番号	そうじ用具名	数
1	自在ぼうき	4本
2	乾式モップ(ダストクロスモップ) <small>かんしき</small>	1本
3	片手ちり取り	2個
4	バケツ	1個
5	黒板消し	3個
6	黒板消しクリーナー	1個
7	小ぼうき	2本
8	毛がき	1本
9	パテナイフ	1本
10	中性洗剤 <small>せんざい</small>	1本
11	スポンジタワシ	1個

資料③ さまざまなそうじ用具の役割

そうじ用具	役割	そうじ用具	役割
<p>自在ぼうき 30cm 45cm</p>	ゆかのゴミをはき出すために使う。	<p>片手ちり取り</p>	軽量でコンパクトなハンディタイプのちり取りで、ゴミを集めるために使う。
<p>毛がき</p>	自在ぼうきなどの毛先にからまった綿ボコリや糸くずを取り除くために使う。	<p>文化ちり取り</p>	取っ手を持ち上げると自動的にふたが閉じるちり取りで、ゴミを集めるために使う。
<p>座敷ぼうき 短柄 81cm 長柄 135cm</p>	座敷のたたみをはくために使う。	<p>デッキブラシ</p>	便所のゆかなど、ホースで水を流しながら洗う場所をそうじするために使う。
<p>シタぼうき 短柄 82.5cm 長柄 125cm</p>	主に外のゆかをはき出すために使う。	<p>黒板消し</p>	チョークで書かれた黒板の文字を消すために使う。
<p>乾式モップ (ブレンモップ)</p>	乾いたモップで、ゆかなどのホコリをふき取るために使う。	<p>黒板消しクリーナー</p>	黒板消しについた粉よごれを吸い取って、黒板消しをきれいにするために使う。
<p>乾式モップ (ダストクロスモップ)</p>	先端の不織布にゆかのホコリをかまらせて取るために使う。	<p>小ぼうき</p>	黒板の粉受け(チョークを置く銀色の部分)や教室のすみにたまった細かいホコリをはくのに使う。
<p>カーベツトスィーパー</p>	カーベツトの表面に付着したゴミやホコリをはき取るために使う。	<p>静電気ホコリ取り</p>	ふさの部分で、ホコリを吸着して取りのぞくために使う。

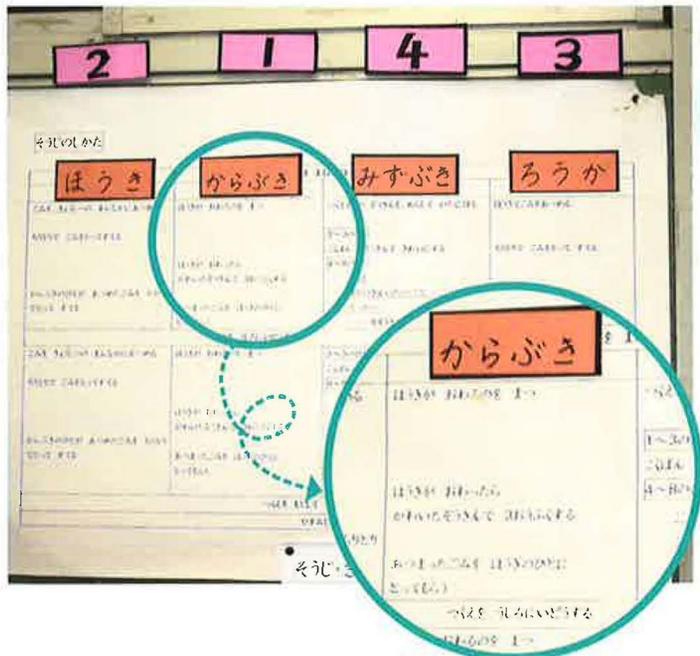
そうじ用具	役割	そうじ用具	役割
<p>真空掃除機 (ポット型)</p>	カーベツトのゴミを吸いこむために使う。	<p>フロアスクィージー</p>	ゆかのそうじをするときのよごれた水をかき集めるために使う。
<p>真空掃除機 (アップライト型)</p>	カーベツトの繊維の中のゴミをかき出して、吸いこむために使う。	<p>汚水取り</p>	ゆかをそうじするときのよごれた水の回収用としてフロアスクィージーと共に使う。
<p>パテナイフ</p>	ゆかに付着した、かさの高いよごれ(ガムなど)を除去するために使う。	<p>作業標示板</p>	作業中であることを知らせ、転倒事故が起こらないように注意をうながすために使う。
<p>弱アルカリ洗剤</p>	金属、照明器具、かべなどの洗浄に使う洗剤。軽度な油よごれを除去するために使う。	<p>中性洗剤</p>	一般家庭で使用されている安全性の高い洗剤。スポンジタワシに少量つけて、あわ立たせて使う。
<p>スポンジタワシ</p>	洗剤などをつけて、表面をやさしくみがくために使う。	<p>カーベツト用洗剤</p>	カーベツトのぬらしすぎをおさえ、効果的によごれを除去するために使う。
<p>棒タワシ</p>	便器などをみがくそうじに使う。	<p>亀の子タワシ</p>	表面にこびりついたよごれ落としに使う。
<p>ハンドスプレー</p>	洗剤や水をきり状にまくときに使う。	<p>バケツ</p>	主にタオルのすすぎ用などに使う。

資料④ そうじマニュアルの例

※例のため、文字は一部読みにくくしてあります

A中学校の例

そうじを「ほうき」「からぶき」など班の数に合わせてジャンル分けし、具体的なそうじの流れをくわしく解説した掲示物。班の番号札は週ごとに移動する。自分の班がやるべき内容がわかる。視覚的なシンプルさが特長である。



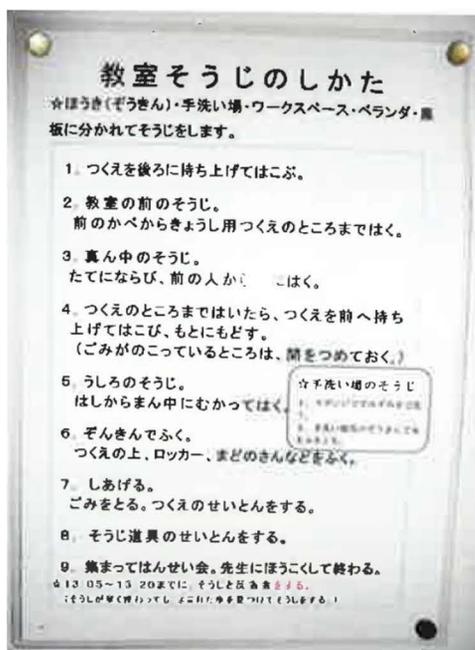
B中学校の例

そうじのすべての内容とルーレット式の分担表とを組み合わせた掲示物。これによって、だれが何を担当するのか、ひと目で確認できる。字の大小や色わけで見やすく作成している。



C中学校の例

机の動かし方やほうきのはき方など、教室そうじの手順をまとめている掲示物。みんながそうじの流れを理解することで、効率よく動くことができるようになる。



D中学校の例

「黒板・ごみ箱」「ぞうきん」など、そうじの場所・内容を大まかに分けて解説し、イラストを添えた掲示物。班の番号を記したマグネットを担当箇所置き、今くどの班が何を担当しているか示している。



★「何をやっていいかわからない」という生徒がいないように、担当する仕事の内容をくわしく・わかりやすく書くことがポイントです。